

講義名	対1)教養特講（東洋史）				授業形態	
担当教員	小野 達哉	開講期・曜日・時限	前期 月曜日 4 時限			
		単位数	2	履修開始年次	1 年生	ナンバリング
主題と概要						
1 0 世紀から 1 9 世紀にかけての中国は、伝統中国あるいは近世中国と呼ばれ、現在までつく社会・文化の原型が形作られた時代である。この講義では、こうした中国伝統社会のあり方について、まず第一に社会・経済面から、第二に政治・文化面から学んでゆく。またこれに加えて、中国は経済的・文化的な先進地域として、周辺諸国との交流を通じ、東アジア文化圏を長きにわたって形成してきた。この講義ではさらに、東アジア諸国に中国の制度・文物がどのように受容されたのかという点から、対外関係の仕組み・文化交流のあり方についても学ぶ、これらの講義を通じて、学生諸君には最終的に、中国がどのようなタイプの近代の方向に向かってゆくか、そのイメージまで、描んでもらいたいと考えている。						
到達目標						
中国史の基本事項について理解し説明できる。 東アジア史上の文化交流について理解し説明できる。 中国的伝統のあり方について理解し説明できる。 中国の近代化像について理解し説明できる。						
提出課題						
毎回授業時に実施する小テスト						
課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法						
毎回の授業時におこなう小テストで、学生の講義の理解度を確認し、それに必要に応じてコメントを付して返却するつもりである。						
評価の基準						
毎回授業時の平常点と、期末試験の総合評価とする。毎回授業時の課題提出だけでなく、学期末に定期試験を実施するので、その旨注意されたい。						
履修にあたっての注意・助言他						
この講義は予備知識は必要としないので、その点は安心して受講してくれてよい。ただし、東洋史に限らず、日本史・西洋史など歴史全般に関心を持ってもらいたいと思う。						
教科書						
.使用しない。						
参考図書						
.なし。						

その他		
講義ではプリントを使用する。参考文献は授業時に随時指示する。		
授業計画		
【第1回】 テーマ：伝統中国社会の原型 内容：中国史における南北 【第2回】 テーマ：伝統中国社会の原型 内容：農村の長期的変化 【第3回】 テーマ：伝統中国社会の原型 内容：都市と商業の成長 【第4回】 テーマ：伝統中国社会の原型 内容：経済発展のパターンとトレンド 【第5回】 テーマ：伝統中国政治の原型 内容：科挙と士大夫社会 【第6回】 テーマ：伝統中国政治の原型 内容：皇帝と統治システム 【第7回】 テーマ：伝統中国政治の原型 内容：皇帝と官僚・軍隊 【第8回】 テーマ：伝統中国政治の原型 内容：士大夫の社会と文化 【第9回】 テーマ：対外関係と文化交流 内容：朝貢と互市 朝貢の概念 【第10回】 テーマ：対外関係と文化交流 内容：朝貢と互市 互市の概念 【第11回】 テーマ：対外関係と文化交流 内容：朝貢体制と朝鮮・琉球・ヴェトナム 【第12回】 テーマ：伝統中国の変革 内容：開港と対外貿易 【第13回】 テーマ：伝統中国の変革 内容：中国地域社会の変貌 【第14回】		
授業形態（アクティブ・ラーニング）		
ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A L 型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間		
【第1回～15回】 予習：前回の講義時に示した授業のキーワードを辞書等で調べておく（120分程度） 復習：プリントの見直し、穴埋め内容の確認をする。返却を受けた小テストを解き直す（120分程度）。		
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連		
全学対象の教養科目であるため、「流通科学大学の学生が卒業時に共通して身に付けておくべき資質・能力」(1)～(5)の習得を目指す。		
双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述		
授業は学生に随時発問しながら進めるが、特段ICTを活用することはない。		
実務経験の有無及び活用		
なし		
備考		
なし		